

第二節 二十七、八年戰役以後時代

二十七、八年戰役中四〇米水雷艇及五四米水雷艇ヲ主力トスル我艇隊ハ克ク威海衛ニ於テ偉勳ヲ樹ラシガ二十八年六月同戰役ノ教訓ヲ技術及教育方面ニ體得スルノ目的ヲ以テ臨時技術及教育取調委員會ヲ設ケ海軍少將山本權兵衛之ガ委員長タリシガ水雷艇、驅逐艦及水雷關係事項ノ決議事項亦少ナカラズ特ニ水雷艇ノ兵裝艦裝ニ關シ顯著ナル貢獻ヲ貽セルモノナリ附錄第四ノ如シ而シテ之等決議事項ヲ參酌シ逐次建造セラレタル代表的水雷艇左ノ如シ(別冊參考圖表參照)

三十一年 第三十一號

三十二年 準、白鷺、第二十九號

三十三年 第四十四號

三十四年 第六十號、第六十二號

三十五年 第六十七號

斯クテ水雷艇ハ三十六年起工三十七年竣工ノ鴻型一等水雷艇七隻第七十四號型二等水雷艇二隻ヲ以テ最後トシ建造ヲ止ムルニ至リシガ三十七、八年戰役ニ於テハ大小七十餘隻ノ水雷艇ガ實戰場裡ニ或ハ港灣沿岸防備ニ活躍シ水雷艦艇ノ効績ノ一半ヲ顯揚セルモノナリ而シテ之等實戰ノ教訓ハ更ニ既成水雷艇ノ兵裝増大ヲ企圖スルトコロアリ四十三年一月ヲ以テ現存一等水雷艇十六隻ニ對シ從來ノ十四時發射管ニ代フルニ十八時發射管三門ヲ以テスルコトニ決裁シ之ヲ實行シ又發射管及供用魚雷中舊式ニ屬スルモノハ可及的新陳代謝セシムル等特種ノ威力ヲ具備スルニ至レリ此ノ間特ニ注目スベキハ三十二年七月英國耶社ニ「タルビン」機關水雷艇一隻註文方ヲ交渉セシコトニシテ其ノ噸數ハ百三十五噸トナリ代價又之ニ準ジ嵩ムコトヲ知り之ヲ中止セシ事實アリ當時恰モ英國ニ於テハ「タルビン」驅逐艦「ヴァイバー」ノ試験中ナリシモノナリ

以上我水雷艇ハ各種異型ノ混合體ナリシガ蓋シ模倣時代ニ於ケル止ムヲ得ザル現象ト稱セザルベカラズ今之等各種水雷艇ノ使用實驗上ノ成績ヲ比較スルニ概ネ左ノ如シ

<p>佛國「クルノー」型 (五、六) (號等)</p> <p>艇ノ断面卵型ニシテ風浪ノ爲動搖極度ニ達シ居住性亦不長ナリ曾テ澎湖島ニ於テ一隻風浪ノ爲轉覆シ世人ノ張目ヲ惹ケリ</p> <p>(備考)</p> <p>右ノ事故ニヨリ二十二年佛國ニ註文ノ同型十七隻中十四隻ハ所要ノ改良ヲ施シ三隻ハ二隻ノ「ノルマン」型ニ代換セリ</p>	<p>獨國「シーシヨウ」型 (二十二) (號等)</p> <p>断面ハ扁平ニシテ「ノルマン」「ヤーロー」ト共ニ發達シ遂ニ驅逐艦型ニ進ミタリシガ漸次大型トナリ船體ノ伸長ニ伴ヒ舵取付位置及形狀ノ關係上旋回圈過大トナリ遂ニ前舵ヲ附シ前後舵ヲ同時ニ動かシ得ルガ如クセリ一般ニ艇尾ノ切缺大ナル爲後部ニ於テ局部的弱點ヲ有ス</p> <p>「シーシヨウ」ノ改良型ハ所謂英「ソーニークロフト」型ニシテ驅逐艦所生時代ノ一好型タルニ至レリ</p>	<p>英國「ヤーロー」型 (一、二) (號等) (三十九號)</p> <p>英國流ノ居住力豐富、速力ノ増進ニ努力シ永ク此種水雷艦艇ノ一權威タリキ唯乾舷高ク動搖幾分大ナルヲ缺點トセリ</p>	<p>佛國「ノルマン」型 (二十一) (號)</p> <p>「クルノー」型ノ缺點ヲ改良セルモノニシテ速力及耐波性ヲ増シ居住上ニモ大ニ注意ヲ拂ヘリ當時佛國ハ英ニ對抗セン爲此ノ種改良水雷艇多數建造セシカバ英ハ之ニ對抗ノ爲遂ニ驅逐艦ノ所産ヲ見ルニ至レリ</p>
--	---	--	---

(備考)

一、水雷船ヲ水雷艇ト呼稱スルニ至リシハ明治二十三年八月海軍艦船籍條例中ノ規定ニ依ル蓋シ當初ノ水雷船ハ噸數僅ニ四十噸ナリシニ明治二十一年二百三噸ノ小艦ノ竣工ニ依リ改稱ヲ至當ト認メシモノナリ

二、水雷艇ノ充實狀況左ノ如シ

- (一) 第一乃至第四水雷艇及小艦ノ五隻明治十九年中ニ起工又ハ竣工ス
- (二) 十九年海防水雷費、海軍公債、特別費等ニ依リ大小更ニ二十五隻ヲ建造シ建造中ノ四隻ノ外二十八年末迄ニ竣工ス

別紙

(四) 二十六年十一月軍艦總噸數十二萬噸ニ達スルト共ニ百十四隻ノ水雷艇新造方ヲ商議セシガ其ノ用途配備等左ノ如シ(現
有二十數隻ハ逐次廢艇ノ見込)

横須賀一八隻 佐世保、久慈、竹敷、舞鶴、大湊各一二隻 鳥羽、吳、門司、佐伯、由良、外一個所各六隻
右實現セズ

(四) 二十七、八年戰役後第一期海軍擴張費中二十九年度ヨリ七ヶ年繼續トシテ四十七隻ヲ又三十年度ヨリ九ヶ年繼續事業
(第二期海軍擴張)ニ依リ二十八隻ノ製造ヲ可決セリ

斯クテ實行ノ途ヲ見ルニ艇形ノ擴大(隻數ノ減少)及建造期ノ繰上ゲ等ニ依リ三十六年六月起工ノ鴻ヲ最後トシ第一水雷
艇以下我海軍整備艇數九十三隻ヲ算セリ

三、水雷艇ニ於ケル魚雷兵裝ノ改善ハ已ニ其ノ一端ヲ示セルガ明治四十年頃海軍大佐石田一耶ハ敷設艇ニ裝備セル海防水雷(三
四式魚雷)ノ利用ノ機會少キヲ説キ寧ロ之ヲ「ヤロー」型二等水雷艇ニ改裝スルヲ可トスルノ意見ヲ提案セシコトアリ實現
ニ至ラザリシモ一等水雷艇ニ於ケル改裝ノ一原因ヲ爲セルモノト認ム

四、別紙ハ新舊水雷艇ノ水雷兵裝ヲ比較セルモノナリ

水雷艇水雷兵裝新舊時代比較表

明治二十年 (第一、二號型)	大正		十年	年
	一等水雷艇 (鷓鴣型)	二等水雷艇 (第六七號型)		
朱式八四式魚形水雷(十四吋)	四個	保式四十五糎水上發射管(藥發)	三	三十六糎首水上發射管
發射框	一組	四十五糎魚形水雷	六	三十六糎水上發射管
外裝水雷一式	一二個	一號機雷	八	三十六糎魚形水雷
			六	二一

(附)

同用導火薬罐	八個	同落下壘	一	中掃海具	*一
擲爆薬々罐	八個	大掃海具二號	*一	掃海薬罐	三
		中掃海具	*一	武式小型一〇〇氣壓空氣壓搾唧筒	一
		掃海薬罐	三		
		武式小型一五〇氣壓空氣壓搾唧筒	一		

*ハ一隊トシテ供給ノモノヲ示ス

六六

驅 潛 艇

驅潛艇ハ世界大戰ノ產物ノ一ニシテ我國ニ於テハ大正五年頃ヨリ此種艇ノ製造ヲ要望セシモ實現ニ至ラズ一方魚雷追躡監視ノ爲平素亦此ノ種艇ヲ要スルノ故ヲ以テ魚雷追躡及交通兼用艇ヲ製シ一時ヲ網縫シ來リシガ漸ク大正末年ニ及ビ純驅潛ノ目的ヲ以テ其ノ二、三種ヲ整備スルニ至レルモノナリ即チ左ノ如シ

驅 潛 艇 要 目 性 能 一 覽

公稱番號	第五九五號	第五九六號	第七〇〇號
製造所	橫須賀工廠	同 上	墨田川造船所
竣工年月	大正一四、八、一	一四、一二、一	昭和二、九、一
全長	一六、七六	一六、五二	二〇、〇〇
最大幅	三、三五	二、五〇	三、六〇
龍骨ヨリ上甲板迄ノ深サ	一、八八	一、四三	一、七六

使用上	機關	兵裝	馬力	滿載時全速力	排水量	吃水(平均)
<p>防備部隊用トシテ相當ノ價值ヲ有ス之ガ用法適當ナラバ相當活躍セシメ得ト認ム尙之ヲ前進根據地部隊ニ多數積載セシメバ局地防禦用トシテ効果アルベシ</p>	<p>「マイバツハ」式發動機、 發動稍手數ナルモ信頼度大ナリ</p>	<p>後部ニ二基ノ十八吋魚雷發射艇及艇尾ニ爆雷落下機(二個)ヲ備フ機銃座二基アリ</p>	<p>七二〇</p>	<p>三五、〇</p>	<p>八、五三</p>	<p>〇、九八</p>
<p>諸性能貧弱ナルヲ以テ防備部隊用トシテ使用範圍局限セラレベク我海軍用驅潛艇トシテ價值僅小ナリ全速力持續時間 四―五時間</p>	<p>「ソーニークロフト」式發動機、 發動裝置簡單操縱意ノ如クナルモ一般ニ薄弱耐久性ニ乏シ</p>	<p>艇首ニ十八吋魚雷發射管一、後部兩舷ニ爆雷落下機各一ヲ有ス</p>	<p>七二〇</p>	<p>三三、〇</p>	<p>七、四</p>	<p>〇、六八</p>
<p>大體ニ於テ操縦性良好ニ機械ハ取扱比較的簡單ニシテ信頼性ニ富ミ速力モ亦驅潛ノ目的ニ適シ局地防禦部隊用トシテ價值アリ、更ニ具體的ニ速アレハ一、防潛網及機雷敷設面ノ監視警戒船トシテノ價值 附近ニ適當ノ基地ヲ設ケ之ヲ待機セシメ多數ヲ交代ナラザルモノトセバ特種ノ天候ナラザル限り使用可能ニシテ充分ノ價值アリ 二、水路嚮導艇トシテ充分ノ價值アリ 三、局地哨戒艇トシテノ價值 眼界狹小、眼鏡ノ使用不可能、航海中全員配置ナル等ノ爲ニ價值僅少ナリ</p>	<p>「ソーニークロフト」船用機械ヲ裝備ス</p>	<p>爆雷六個ヲ載スベキ落下臺一、 五稜短砲一、機銃一、 無線電信機一、</p>	<p>三〇〇</p>	<p>二〇、〇</p>	<p>一八、〇〇</p>	<p>〇、八〇〇</p>